

3.	農耕地土壌分類の改訂						
<p>要約 この改訂版は、<u>分類基準</u>の定量化、切り取り (key out) 方式の採用、新たな土壌群の新設、<u>亜群</u>の導入などにより、<u>土壌管理や環境保全機能</u>の実態に即した、<u>包括的分類</u>であり、従来のものに比べ検索が容易で活用しやすくなった。</p>							
農環研 環境資源部 土壌管理科 土壌調査分類研究室						連絡先	0298-38-8275
部会名	環境資源特性	専門	土壌	対象		分類	研究

〔背景・ねらい〕

地力保全土壌調査や国土調査などの事業により、現行の農耕地土壌分類では分類基準の定義が不明瞭なことや包括的でないことなど問題点が明らかになってきた。また、社会的要請により、土壌管理保全機能の評価に密着した土壌分類を行う必要性が出てきた。そこで、平成元年度農業環境推進会議の指摘に基づき、土壌分類改善の委員会を設け、改訂を行った。

〔成果の内容・特徴〕

委員会での素案に外部関係者の意見を加味・検討の上、改訂版を作成した。現行の農耕地土壌分類二次案との主な違いは次の通りである。

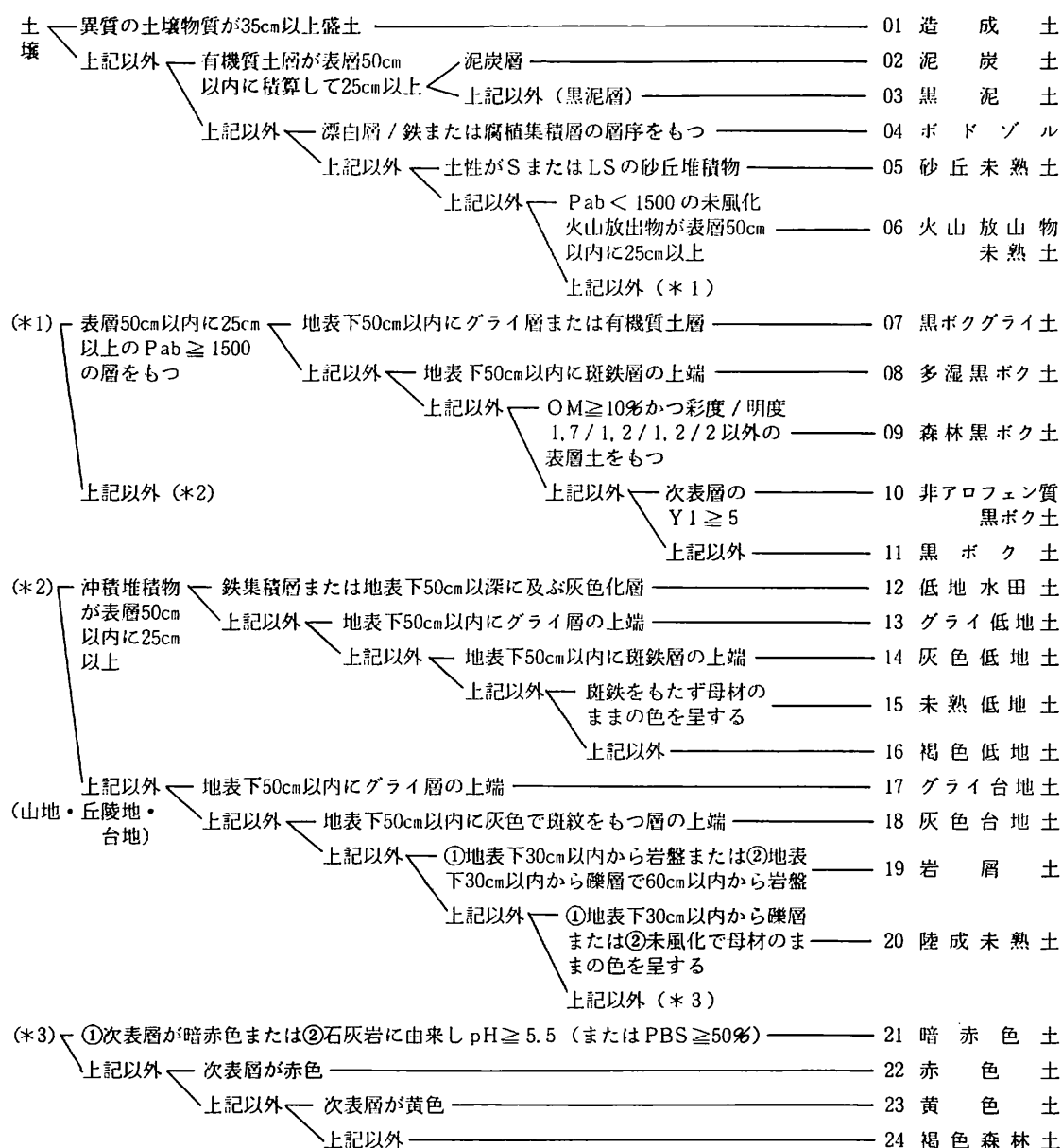
- ① カテゴリーに亜群を加えて、現行の土壌群 (16)、土壌統群 (56)、土壌統 (320) の3段階から、土壌群 (24)、亜群 (77)、土壌統群 (204)、土壌統 (303) の4段階に改めた。
- ② 理化学性データを取り入れるなど分類基準を定量化した。土壌群、亜群の定義のために特徴土層及び識別特徴を新設し、切り取り (key out) 方式を採用して検索を容易にするとともに、包括的な分類にした。
- ③ 土壌群にポドゾル、火山放出物未熟土、森林黒ボク土、非アロフェン質黒ボク土、低地水田土、未熟低地土、陸成未熟土を新設した。
- ④ 亜群を新設して、異なる土壌群相互間の移行型や、土壌群の中で中心概念からはずれたものを区分できるようにした。
- ⑤ 土壌統群では、黒ボク土、泥炭土、火山放出物未熟土などに、その特異性からそれぞれ独自の分類基準を設けた。
- ⑥ 土壌相として土壌温度状況を採用し、地域の違いを区分できるようにした。

〔成果の活用面・留意点〕

現行に比べ検索が容易で、土壌管理や環境保全機能の評価により有益な土壌分類として活用できる。パソコン上で土壌分類名を検索できるプログラムを提供する予定である。なお、現行分類との対照表、土壌の英名表が付属している。分類に当たっては、若干の定められた分析法による理化学性データが必要である。

[具体的データ]

土壤群区分のフローダイアグラム



注) このフローは説明を簡略化してあるので、詳細については土壤群の定義を参照のこと。

[その他]

研究課題名：農耕地土壤分類の改訂

予算区分：経常

研究期間：平成5年度（平成3～5年）

研究担当者：三土正則ほか農耕地土壤分類委員会委員

発表論文等：農耕地土壤分類改善のための土壤断面データ集，農環研資料，第12号，p.1-56（1991）

農耕地土壤分類の改訂案，土壤肥料学会講演要旨，38集，p.143-144（1992）

農耕地土壤分類第3次改訂版，農環研資料（発表予定）